【北海道伊達市　指定文化財台帳】

<table>
<tr><td>指 定 主 体</td><td colspan="2">伊達市</td><td>指定番号</td><td>第４０号</td></tr>
<tr><td>名　　称</td><td colspan="2">さんさ時雨（しぐれ）</td><td>員　数</td><td>１</td></tr>
<tr><td>指定年月日</td><td colspan="2">2008（平成２０）年６月２７日</td><td>種　別</td><td>無形民俗文化財</td></tr>
<tr><td rowspan="2">所　有　者</td><td>氏　名</td><td colspan="3">伊達市さんさ時雨保存会</td></tr>
<tr><td>住　所</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td>所　在　地</td><td colspan="4">北海道伊達市</td></tr>
</table>

概　　要

北海道伊達市は、現在の宮城県亘理町近辺を拠点とした仙台藩亘理伊達家とその家臣団が明治初期に移住してできた成り立ちをもち、移住の際に、宮城県の伝統的な民謡で祝いの席などで披露される「さんさ時雨」が伝えられました。「さんさ時雨」は、1589（天正 17）年に亘理伊達家初代当主の伊達成実が詠んだ詩に感嘆した伊達政宗が民謡に作り替え、戦から凱旋する際に陣中の武士たちに歌わせたことに由来するといわれています。

現在は、「伊達市さんさ時雨保存会」によって継承され、地元の子どもたちが中心となって地域の祭典などで披露されています。